



日本最大の湖・琵琶湖を有する大津市は、古くから豊かな水資源に恵まれ、湖魚をはじめとする食文化が育まれてきました。その中でも、ウナギは大津を代表する味覚の一つです。江戸時代には、東海道最大の宿場町として栄えた大津宿を往来する旅人に、瀬田川や琵琶湖で取れたウナギ料理が振る舞われ、多くの人々を魅了しました。今は琵琶湖でウナギが取れる



■ ウナギ文化を楽しむ催し（大津市）

焼いたり食べたり存分に



①大津を代表する食文化のウナギ
②昨年の「OTSU UNAGI & SAKE FES」の様子＝大津市浜大津5のなぎさ公園おまつり広場で



ことは少なくなりましたが、その食文化は現在も受け継がれ、市内には長年愛され続ける老舗から新しい感覚でウナギを楽しめる店まで、多彩な専門店が軒を連ねています。だし巻き卵や近江牛などと一緒に味わ

う組み合わせメニューや、やぶしやぶやお茶漬け、すき焼きなどのメイン食材の料理など、それぞれに個性があり、食べ比べも大津ならではの楽しみ方です。そんな大津のウナギの食文化を多くの方に知ってい

ただごと、24、25日の2日間、「OTSU UNAGI & SAKE FES 2026」を開催します。イベントでは、市内のウナギ店による自慢のウナギ料理を食べ比べできるほか、自分でウナギを焼いて味わう「うなぎ串焼き体験」も実施。炭火で焼き上げた「焼きたて0秒」のウ

ナギは格別のおいしさです。さらに、滋賀の地酒やクラフトビールなども楽しみめ、大津ならではの食文化を五感で堪能できます。歴史あるウナギの食文化と、職人が受け継ぐ技、そして滋賀の地酒が一堂に会する2日間。食欲の秋は、大津でしか味わえない「うなぎと酒」のぜいたくなひとときをぜひお楽しみください。

（びわ湖大津観光協会・坪田朋也）

◆【開催情報など】「OTSU UNAGI & SAKE FES 2026」は24、25日。大津市浜大津5のなぎさ公園おまつり広場で。京阪電車島ノ関駅より徒歩約5分、JR大津駅より徒歩約15分。



これまでの「しが旅のススメ」はこちらから